

進路行事の充実による自己理解と進路選択

一面談による個に寄り添った支援を目指してー

愛知県立碧南工科高等学校

1 はじめに

碧南工科高等学校は碧南市北部にあり、近くの碧南臨海部には多くの自動車関連工場がある。校訓は、「人成って技育つ」であり、地元碧南市の強い要望により、愛知県立碧南高等学校の機械科を分離独立する形で昭和48年4月に開校した創立53年目となる工科高校である。卒業生は1万2000人を超え、卒業生のたゆまぬ努力と活躍により、地元産業界から期待される学校である。

本校生徒の進路希望は、例年、就職希望者が全体の8割と多くを占めており、そのうちの約7割が製造業に就職しており、恵まれた求人状況を達成している。

2 実践研究内容

(1) 研究の概要

本校では、進路行事を充実させることで、主に自己理解と主体的な進路選択に向けた取組を重点的に行った。自己理解に向けた取組として、1年次に職業レディネステスト、2年次に一般職業適性検査を実施した。また各学年で、ポートフォリオの作成を行った。主体的な進路選択に向けた取組として、1年次に選科面談、2、3年次に進路シミュレーションを行った。また、2年次の3月にオープンカンパニーを実施した。進路先への移行に向けた取組として、個別の移行支援計画作成し、移行先の企業へ生徒の特長を伝えた。さらに、進路指導主事が就業後に移行先を訪問し、就業場所を見学したり、人事担当者や対象の卒業生と面談を行ったりした。

(2) 三つの取組について

ア 自己理解を深める取組

職業レディネステストと厚生労働省編一般職業適性検査の二つの検査とポートフォリオの作成により自己理解を深めることを目指した。

職業レディネステストと一般職業適性検査は、独立行政法人労働政策研究・研修機構が作成した試験である。職業レディネステストでは、六つの職業領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）への興味・自信と、三方向の日常行動特性（対情報、対人、対物）から、職業興味、基礎的志向性と職務遂行に関する自信度の特徴を得ることができる。職業名を知らなくても回答することができるため、1年生のうちに自分自身が得意だと思っていることを明確にできるツールである。また、一般職業適性検査は、11種類の筆記検査から職業に関わる自分自身のさまざまな職業適性能力のレベルを測り、職業選択への手がかりとすることができるツールである。どちらも公益財団法人愛知県労働協会を通じて検査を実施した。

ポートフォリオについては、学習・学校生活・行事・部活動・資格検定の取組について振り返り、5段階で自己評価を行う。反省点を考え、今後の目標を設定する内容となっている。実施しているポートフォ

リオの例として、学習についての振り返りを行うシートを資料1に示す。実際の就職活動で行う自己分析に次の目標設定を足したような内容となっており、ポートフォリオを積み重ねることで、3年次での履歴書作成や就職試験への対策にもなっている。

自己理解を深めるために、これらのツールを活用することは、自身の能力・特性について理解する力を高めることにつながった。

イ 主体的な進路選択につなげる取組
選科面談と進路シミュレーションという進路行事において、生徒との面談を重視し

ていくことで、より個に寄り添った支援を目指した。まずそれぞれの行事について説明する。

選科面談とは、2年次に進級する際にどちらの学科を選択するかを選科希望調査票で調査し、その選択が卒業後の進路希望に適しているかという観点から助言を行う進路行事である。

進路シミュレーションとは、2年次の3学期と3年次の1学期に進路希望調査を行い、校内の希望状況から自分がどの企業に応募できるのかを模擬実験する進路行事である。進路シミュレーションのねらいは、「生徒が企業研究を行うきっかけを与える」とことと「就業内容の研究を行うことで、自己の希望や特性に合った企業選びを行う」とことである。これらにより、自身の能力・特性を理解する力と進路先を理解する力の二つを高め、進路のミスマッチを減らすことで離職率の減少を図った。生徒は第1希望から第5希望まで記載する形式にしている。資料2に示す進路シミュレーション個票により、生徒に結果を知らせた。この個票からは、自分と同じ企業を何人の生徒がどの希望順位で希望しているかを知ることができるようになっている。

【資料1 ポートフォリオ】

● この1年、自分が取り組んできたことを振り返って、反省点や改善点を書き出してみましょう。

学習	得意科目・苦手科目について 定期考査や授業への取り組みはどうでしたか
学習への取り組みを5段階で評価してみよう。 (評価 5 4 3 2 1)	
なぜ、上記の評価にしましたか？	
得意な科目の学習において努力したこと、工夫したこと	
苦手な科目の学習において不十分だったこと、改善したいと思うこと	
学習面において、次年度の目標を立ててみよう。	

【資料2 進路シミュレーション個票】

No.	クラス	番号	学習科目	生徒名	進路	希望順位	企業名/学校名	職種	希望人数	希望人数	希望人数	希望人数	希望人数	希望人数	希望企業	暫定企業名
					第一											
	五段階	欠席数	出席数	部活動	性別	第二										職種
					第三											
					第四											
					第五											

そして進路シミュレーションの結果から、面談を行った方がよい生徒をピックアップした。面談を行う観点としては、まず第1希望から第5希望で希望外になってしまった生徒、次に第1希望から第5希望までの業種や職種に統一性のない生徒、学科の学習内容とは違う内容を希望している生徒、特別な支援を必要とする生徒が挙げられる。これらの生徒の多くは、企業の知名度や知っている企業を書いただけの場合、職種について深く理解していない場合が多いため、就職後のミスマッチにつながりやすい。

面談の効果の一例として、面談前後による生徒の変容について説明する。資料3は、生徒Aの進路希望の変化である。生徒Aは、本校の電子工学科に在籍しており、5月の進路シミュレーションでの希望調査では、希望する業種が小売業と接客業の二つに分かれており、仕事の内容も統一性を欠いていた。面談を実施したところ、金属やプラスチックを製造するときの音や臭いに強い忌避感を覚えていることが分かった。面談を通して自身の特性を見つめ直し、あわせて、学校で学習した内容を生かせる分野を考えた結果、最終的な進路希望として食品関連の製造業を希望するようになった。

【資料3 生徒Aの面談前後での進路希望の変化】

5月の進路シミュレーションでの希望業種と職種			7月の就職希望票での希望業種と職種		
第一希望	小売業	衣料品販売スタッフ	第一希望	製造業	乾燥板海苔の製造
第二希望	接客業	美容師アシスタント	第二希望	製造業	冷凍食品の製造
第三希望	接客業	エステシャン	第三希望	製造業	パンの製造
第四希望	接客業	エステシャン	第四希望	製造業	パンの製造
第五希望	小売業	携帯電話販売スタッフ	第五希望	製造業	パンの製造

その他に、実際の製造現場等を見学し就業後の仕事内容を知る機会として、2年生の全生徒を対象にオープンカンパニーを実施した。実施時期は3月の春休み期間で、参加については任意としたが、令和6年度は、本校生徒が15社に155名参加した。実施後に、参加した生徒から見学した感想についてアンケートを取った。生徒の感想をまとめると、今回のオープンカンパニーでは、職場環境や業務内容について理解を深めるとともに、現場で働く方々の説明や対応を通じて、企業の取組や働き方を学ぶ貴重な機会となった。オープンカンパニーは生徒にとって、今後の進路選択や就職活動に役立つ体験となり、進路を考える上で有意義な経験であったことが確認できた。

ウ 進路先への移行に向けた取組

移行先の企業へ生徒の特長を伝えるために、個別の移行支援計画を作成した。資料4に本校で使用した様式を示す。個別の移行支援計画は、クラス担任が、本人・保護者と相談した上で作成した。

また、卒業後の適応状況や課題を把握するため、対象の卒業生が実際に勤務している現場を訪問して、企業の人事担当者と面談を行い、研修の進み具合や出勤できているか等の就業状況を確認した。対象の卒業生は、たどたどしいながらも製造現場の機械操作に従事していた。卒業生と面談し、困っていることや悩んでいることなどを話し合った。進路指導担当として、卒業後も学校は卒業生の相談に乗ることができると伝えるよい機会になった。

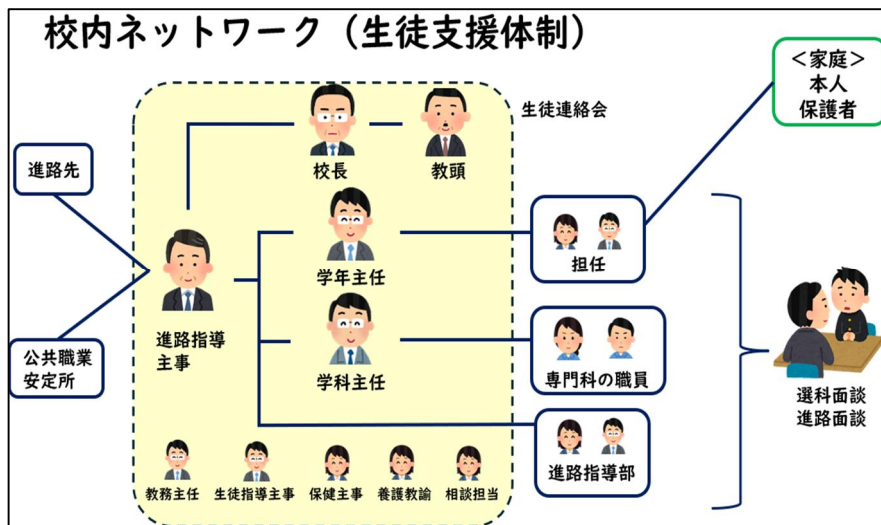
【資料4 個別の移行支援計画】

【高等学校→就労先】 個別の移行支援計画					
					作成機関
					記入者
プロフィール					
フリガナ	生年月日		住所		
生徒氏名	H○年○月○日		(男・女)		
就労先	電話番号		氏名		
電話番号	通勤方法		電話番号		
将来の生活について本人・保護者の希望					
これまでの支援の内容					
健康	基本的な生活習慣	社会性	学習	余暇等	
・身体・姿勢・手指 ・視覚・聴覚・移動 ・精神	・食事・排泄・衣服着脱 ・金銭の利用・交通機関の利用 ・用具の使用・片付け など	・言語理解・さまじりの理解 ・意思伝達・感情コントロール ・集団行動・危険回避 など	・聞く・話す・書く・読む ・推論する・計算する	・興味関心 ・余暇利用	
今後必要と思われる支援と関係機関の連絡先					
健康	基本的な生活習慣	社会性	仕事	余暇等	
備考					
同意書					
貴校で作成した個別の移行支援計画を()へ引き継ぐことに同意します。					
令和 年 月 日					
[] 高等学校長 様				署名 []	

(3) 校内支援体制づくり

【資料5 校内支援体制】

生徒の主体的な進路選択を支援するためには、進路選択に迷っている生徒に対して適切な助言を与える個別の相談場面をつくる必要がある。そこで、進路指導部を中心として、校内支援体制を整備し(資料5)、校内の教員が生徒の現状を把握するための情報共有を行い、その情報から面談の機会を各教員に設けてもらうようにした。

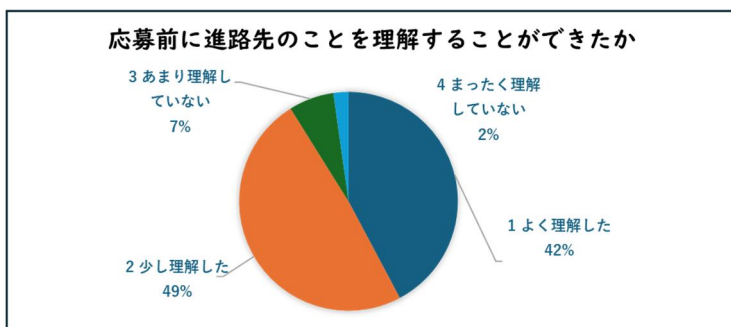
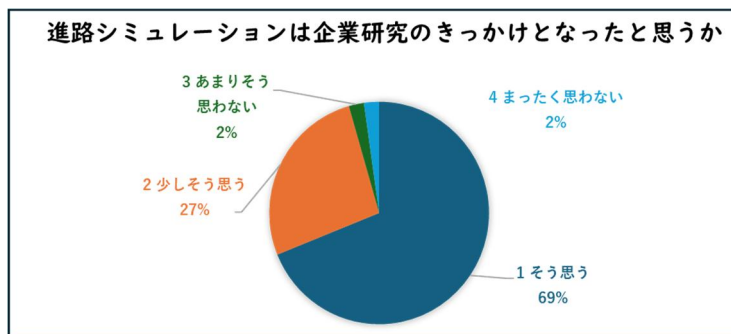


本校では、生徒連絡会という会議を月に1回の頻度で行っている。ここでは、各分掌の立場から支援を必要としている生徒の情報を持ち寄り共有する。会議の参加者は、管理職・教務主任・生徒指導主事・保健主事・進路指導主事・学年主任・学科主任・養護教諭・相談担当である。会議の参加者で情報共有し、その後各分掌で情報を展開することで、支援が必要な生徒の情報を職員全体で共有することができている。情報共有することで、教員が生徒の実態や支援の方針について共通理解をもって面談を行えるようになった。具体的には、①会議で情報共有、②各分掌で情報展開、③進路指導部から面談依頼、というプロセスを組んだ。このように生徒連絡会を活用することで、進路指導部が進路面談のまとめ役として機能することができた。

(4) 実践の検証

就職希望者を対象に、進路指導を通してのアンケートを10月に実施した。「進路シミュレーションは企業研究のきっかけとなったと思うか」「応募前に進路先のことを理解することができたか」という質問に対する回答結果を資料6に示す。「進路シミュレーションは企業研究のきっかけとなったと思うか」という質問について、「そう思う」と「少しそう思う」と回答した割合は96%となり、ほとんどの生徒にとって進路シミュレーションが企業研究を行うためのきっかけとなったことが分かった。また、「応募前に進路先のことを理解することができたか」という質問について、「よく理解した」が42%、「少し理解した」が49%であり、

【資料6 就職希望者へのアンケート結果1】

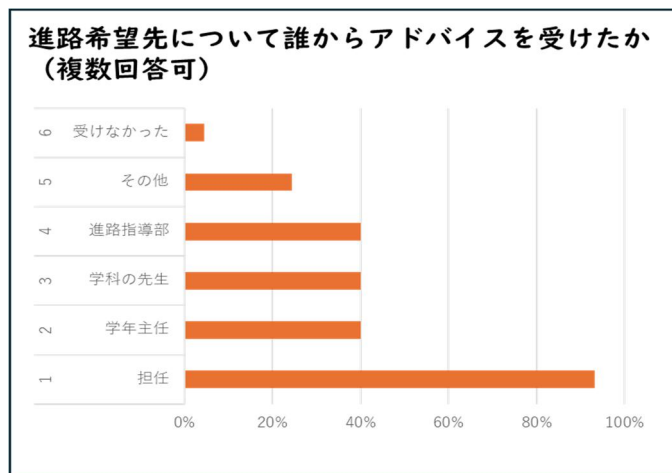


合計で91%の生徒が企業の理解を進めたと回答した。

また、「進路希望先について誰からアドバイスを受けたか（複数回答可）」という質問に対する回答結果を資料7に示す。担任が93%と大きな比率を占めているが、学年主任、工業科の職員、進路指導部とが同じ40%という比率となった。

このことから、本校では、進路シミュレーションと校内支援体制を活用した進路指導により一定の効果を得られたことが分かった。

【資料7 就職希望者へのアンケート結果2】



3 成果と課題

本研究では、進路行事の充実と面談による個に寄り添った支援を実施することで、生徒が自己理解と主体的な進路選択をできるように進めた。就職希望者のアンケートから、本研究のねらいの一つであった、「生徒が企業研究を行うきっかけを与える」ことができ、企業理解が進んだことを確認した。また、生徒連絡会で情報共有をすることで、支援が必要な生徒に対して適切に面談を行う環境をつくることができていたことを確認した。これらのことから、面談や進路行事を充実させ進路先の理解を深めることで、自身の能力や特性に応じた進路を主体的に選択することに対して一定の効果があつたと考える。また、進路先への移行に向けた取組として、新たに個別の移行支援計画を作成し、進路先との情報共有を行うことができた。

就職試験に対しては、自己分析や企業研究、業界研究などやらなければならない準備が多数存在する。しかし、それらの準備について、自分の将来のことであるのにやりたくないことと捉え、受け身になってしまう生徒が多いように感じる。学校が進路行事の充実を図ることで、進路選択を生徒がやりたくないことではなく、必要なことと前向きに捉えることで、最終的には各生徒の進路実現につながるということが重要であると感じた。

また、本研究の課題として、これらの進路行事を行うために進路指導に対する指導力の向上が不可欠なことが挙げられる。そのため、今まで以上に教員が企業など他の業界について知識を得るための研修や企業見学等を推進していかなければならない。また、面談では、生徒の意見を引き出すために多くの時間が必要とされる。ワークライフバランスが重要視されている中で、それらを実現していける持続可能な進路指導のシステムを構築していくことが課題である。そして、今年度就職した生徒が、数年後に離職せずに仕事を続けることができているか調査し、今回の研究が離職率の減少につながったかを調査することも今後の課題である。

特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究(支援スケジュール)

略称		
研究推進 3つの柱 (取組)	①理解	自己理解
	②選択	主体的な進路選択
	③移行	進路先への移行に向けた取組

略称		
高めたい 資質・能力	理解	能力・特性を理解する力
	相談	自ら相談し、支援を求める力
	情報	進路先を理解する力
	選択	能力・特性に応じた進路を選択する力
	表現	能力・特性を表現し、伝える力

月	取組	資質・能力					学年			教育活動 取組内容(行事等)	担当 (分掌等)	備考・活用ツール等
		理解	相談	情報	選択	表現	1年	2年	3年			
4月	②	○		○	○				○	3年生進路説明会_幹旋就職・進学推薦に関するルール説明	進路	幹旋就職・進学推薦に関するルールなどを説明する。
	①	○		○				○	SPIテスト	進路・第3学年	SPIテストシート	
	②	○	○	○	○			○	○	2・3年生_校外学習	工務・進路・学科	校外学習用レポート等
	②	○		○	○		○	○	○	進路希望調査	進路・担任	進路希望調査票
	①		○			○	○	○	○	個人面談	担任	個人面談シート
	①	○					○	○	○	クレペリン	教務・担任・相談	クレペリンツール
	①	○		○	○		○	○		学びの基礎診断テスト	教務・担任	学びの基礎診断テスト用紙
5月	②	○	○	○	○	○		○	○	進路シミュレーション	進路・第3学年	進路希望調査票
	①	○			○			○	○	実力判定テスト_進学対象者①	教務・担任	国・数・英の実力テスト
	②	○	○	○	○			○	○	合同企業説明会	進路	20社程度の企業・大学等がPRを行う。
6月	②	○	○	○	○	○		○	○	進路シミュレーション	進路・第3学年	進路希望調査票
	②	○	○	○	○	○	○	○	○	保護者会	進路・担任	個人面談シート、進路希望調査票等
	①	○		○	○		○			1年生_職業レディネステスト	進路・学年	職業適性検査ツール
	③									卒業生就業先人事担当との面談	進路	個別の移行支援計画
7月	①	○	○	○	○	○		○	○	進路相談_(保護者、生徒本人、担任、進路)	進路・担任	進路について、不安なことなどを面談する。
	②	○		○	○			○	○	進路希望調査(本番)	進路・第3学年	進路希望調査票ツール
	①	○			○		○			第1回選科希望調査	工務・進路	選科希望調査ツール
8月	①	○			○			○	○	実力判定テスト_進学対象者②	教務・担任	国・数・英の実力テスト
	①	○		○				○	○	面接練習	担任・学科・進路	面接練習用ツール
	①	○	○	○	○			○	○	クラフトマンⅢ_(職業体験)	教務・担任	クラフトマンⅢツール
	③									卒業生就業先訪問	進路	個別の移行支援計画
9月	①	○		○				○	○	面接練習	担任・学科・進路	面接練習用ツール
	②	○		○	○		○			1年生_生徒を対象とした選科説明会	工務・進路	選科について(スケジュール等)説明する。
	①	○			○		○			第2回選科希望調査	工務・進路	選科希望調査ツール
10月	②	○		○	○			○	○	進路希望調査	進路	進路希望調査票
	①	○		○	○		○	○	○	学びの基礎診断テスト	教務・担任	学びの基礎診断テスト用紙
	①	○	○	○	○	○				選科面談	学科	選科希望調査ツール
	②	○	○	○	○		○			1年生_校外学習	工務・進路・学科	校外学習用レポート等
11月	①	○			○					第3回選科希望調査	工務・進路	選科希望調査ツール
	①	○	○	○	○	○				選科面談	学科長	選科希望調査ツール
12月	②	○	○	○	○	○		○	○	進路シミュレーション	進路	進路希望調査票
1月	①	○	○	○	○	○		○	○	進路相談_(生徒本人、担任、進路)	進路・担任	進路について、不安なことなどを面談する。
	①	○		○	○		○			2年生_職業適性検査	進路・学年	職業適性検査ツール
	③									移行支援保護者相談	担任	個別の移行支援計画
2月	①	○		○		○	○	○	○	ポートフォリオ	担任・学科・進路	進路指導ツール
3月	②	○	○	○	○			○	○	合同企業説明会	進路	20社程度の企業・大学等がPRを行う。
	②	○	○	○	○			○	○	進路シミュレーション	進路	進路希望調査票
	②	○	○	○	○		○	○	○	オープンカンパニー	進路	進路指導ツール
	③								○	移行先への個別の移行支援計画引継ぎ	進路	個別の移行支援計画

【高等学校→就労先】

個別の移行支援計画

作成機関	
記入者	

プロフィール					
フリガナ		生年月日	住所		
生徒氏名		HO年O月O日 (男・女)		電話番号	
就労先			保護者	氏名	
電話番号	通勤方法			電話番号	

将来の生活について本人・保護者の希望

これまでの支援の内容				
健康	基本的な生活習慣	社会性	学習	余暇等
・身体 ・姿勢 ・手指 ・視覚 ・聴覚 ・移動 ・精神 など	・食事 ・排泄 ・衣服着脱 ・金銭の利用 ・交通機関の利用 ・用具の使用・片付け など	・言語理解 ・さまじりの理解 ・意思伝達 ・感情コントロール ・集団行動 ・危険回避 など	・聞く ・話す ・書く ・読む ・推論する ・計算する ・描く ・PC利用 など	・興味関心 ・余暇利用

今後必要と思われる支援と関係機関の連絡先				
健康	基本的な生活習慣	社会性	仕事	余暇等

備考	
----	--

同意書

貴校で作成した個別の移行支援計画を()へ引き継ぐことに同意します。

令和 年 月 日

高等学校長 様

署名